

フレーベル自傳

(第五回)

《マイニシゲン太公に宛てたる書翰》

倉橋惣三譯

三十、エナの生活

此時代のこと記してみたいことをもう一つ私は持つて居ります。それまでの私の生活は私が練習生をしてゐた時分、自然科學の研究を獎勵し種々の難點を私のために説き去つてくれた田舎醫者

から受けた評價の他には一度も同情ある眼を以つて見られたことはありませんでした。けれどもエナでは教育を施す手段として斯る同情は自由に得られるのでありました。エナには當時二つの學會がありました、一つは植物學會、一つは鑑物學會

がありましたが、一つは博物學會に於てならいくらかの功業をなし得るかも知れないといふことをいひ得るのでした。而してこの學會は實際に私の入會を希望したのです。

この學會は設立者の死去と共に解散せられ、而して私は其後會員と交誼を結んで來ませんので、この學會へ入會したといふことは私の後生涯に何

と呼ばれて居りました。

博物學に清新な興味を持ち、具體的に働いてゐ

る多くの若い學生は會長から會員になるやうにと勧められました。而してこの獎勵的の愉快が私にも提供されました。

當時私は數種の學會に會員となり得る資格を持つて居りました。

この學會は設立者の死去と共に解散せられ、而して私は其後會員と交誼を結んで來ませんので、

この學會へ入會したといふことは私の後生涯に何

等大なる影響を與へませんでしたが、而かも尙今や私の心内に力強く現れて來た高級な科學智識に對する憧憬を目覺めさせました。

大學内に住つてゐる間、私は極めて控目な經濟的な生活をして居りました。私の不完全な教育と嗜好と憧憬は恰度この生活にふさはしいものであります。私は晴れの場所などへは滅多に出たことはありません。而して斯る控目な生活をしてゐましたので兄(トラウゴット)を唯一の友として居りました。兄は私がエナに住居するやうになつての最初の一年間醫學を研究して居りました。

その時分でも尙非常に好きであつた芝居へは折々行つてみました。この始めての學生生活の第二年目に於て靜平な生活を送つて來たにも係らず私は困難な地位に陥りました。それは完く私が大學に入學する時から始まつてゐたのです、けれども三年半目に至る迄は現れて來なかつたのでした。

私が大學に行つた時父はたゞ第一半年だけの分としていはなく多分全學年のとしてせう私の生費に宛た少額の銀行爲替を與へてくれました。

以前一寸申したやうに第一年の間私と共にエナにゐた兄が當時窮乏してゐましたので、私にまだ皆受取つてゐなかつた手當のいくらかを貸してくれと言ひました。兄は直き返金出来るつもりでした。私は心よく多からぬ爲替の大部分を兄に與へて了ひました。けれども不幸にして私は金を返して貰へませんでした。而してそれが爲めに私は益々困難に陥りました。

私の地位は恐しく逼迫して來ました。私の多からぬ手當は第一年の終りまでにはなくなつて了ひました。けれども私は大學を離れることは出來ませんでした。殊に科學智識に對する憧憬が私を捉へて居りましたし。勉強して大事をなさうと思ひ立つた私がどうして大學から離れることが出来ませう。

且又私は父がもう半年私を大學に止めてくれるやうに説き伏せられ得るであらうと思ひました。

父はこの事に就いて何も聞き届けてくれませんでした。して私の保管人は父の所説に同意しませんでした、そこで兩者の強情の罰金は私が拂はせられることになりました。

第三半年の終頃には私の第3逼迫はいよいよ烈しくなつて來ました。私は食料屋へ何でも三十ターラーだかの借金が出來ました。

食料屋の主人が數回大學の統理部で私を呼び出して支拂を請求しても、私がすこしも拂ふことが出来なかつたのと、それから食料屋の主人が父の許へ言つてやつてもそんなことは知らぬと厳しい拒絕に會ふばかりだつたので私は支拂をその上ぐずくしてゐる場合には禁錮せられると脅かされました。而して私は到頭この刑罰に従はさせられました。

三十二、大學牢の生活

私の繼母は父の不快を焚き付けました。而して父の頑固をよろこびました。

私の財産のいくらかを尙支拂ふことの出來た保管人は私を救うてくれられるのでした。併し彼は助けてはくれませんでした。何故ならば捷の文書は保管人の方から出した交渉を容れなかつからであります。

誰でも私の不幸續きを知つて父のかたくなの解けることを望みました。

私は代贖羊のやうにかたくな、兩親のむら氣に事へました。而して九週間といふもの代贖羊の如くエナ大學の牢獄に打ち委れて居りました。(譯者註、獨逸の諸大學には手に餘る學生を懲らし最後の手段として禁錮すべき牢獄の設備あり、こは勿論都市等に設けらる、牢獄とは何等の關係あることなし)

遂に父は私が相續財産の名義になつてゐる父の財産に對するすべての要求を正式に棄て去ること

によつて私のために大學の賄方に金を送つてくれることに同意しました。而してそれ故に私は遂に自由を得ました。

囚はれ人として私の地位が私を鬱憂に投げ込んだにも係らず、私の囚はれの時間は全然無益のものではありませんでした。

科學的智識に對する入獄前までの私の努力は羅甸語の智識の確固たる基礎の缺乏を自覺させました、それ故私は今や友達の助けを得て出来るかぎり私の缺點を補はふと試みました。

けれども言語の智識が判然たる外的印象に結び付けられてゐる所では私は何時も事實と言語との關係を認めることが出來ました。例へば植物學の學術名稱の如きは私は直きに熟知するに至りました。心のこの特性は氣付かれずにそのまま過ぎて來ました。私は極く少しを知り而して了解しました。私自身に就て又私の日常生活の行爲に關しては何も得る所がありませんでした。

この牢獄時代の第二の仕事は幾何學の課題に對する準備がありました。この幾何學は私はある職業に於て直ちに獨自の地位を贏ちうるといふことを主張して居りました。

第三に私はウイルケルマンの「美術論」を研究しました。この美術論を通して或る高級な藝術情操が進ましめ得ないやうに私には何時も思はれました、その智識といふのは私が心から深く望んで居つたものであります、又私が自由に選擇した結果なのであります。

私は是等の版畫の起した興味の燃燒を充分に認

めるとが出来ました。けれども當時は私はこの影響は受けませんでした。而して美術に對する感情が私の心内に開展するのも遅いのでありました。

私が今以前のことや又その後のこと、偉大なもの又微小なもの、私を感化した美術的情緒を眺め

返す時、而して藝術的情緒の源泉及び方向を認めた時私は藝術(彫刻並びに音樂)は言語學と同じであるといふことを悟りました——私は美術の概略を完全に學ばうとしましたが成功しませんでした。而かも私は自分も亦美術的の教育を受けたならば

美術界に於て何物にかなり得たであらうとはつきり感じました。

尙又私の禁錮せられてゐる間にゼンダヴェスク(ゾロアストラ教經文集)の撮要の悪い譯本が私の手に入りました。

(この古代波斯の經典の内に)我々のと同じやうな生の眞理の含まれてゐること及び而かも我々のとは全くかけ離れた宗教的立脚地を以つてそれが

對比せられてゐるといふことの發見は私の注意を促しました、而して私の生活と思想とにある普遍性の感情を興へました。この感情は然しながら現れるが早いか消えてなくなつてしましました。

三十三、父の家に歸る

一八〇一年の夏期の學期の初頃、私は遂に拘留の身から自由になることが出來ました。私は直ちにエナを去りました、而して私の大學生活も同時に終りを告げました。私は父の家へ歸つて行きました。

私は丁度十九歳であります。その時私は屹度浮かぬ心と曇つた心と押付けられたやうな心とを抱きながら兩親の家へ歸つて行つたことであります。

けれども春がすべての自然を再び温め目覺ませてくれました、而して眼つてゐた私の欲求をも蘇らせ更によきものに向つて進ましめてくれました。

私はこれまで獨逸文學には僅の少ししか交渉をしませんでした、而してシルレル、ゴエーテ、ヴィーランド等の名を私は今になつて始めて覺え始めたのであります。

獨逸文學に於ても亦私は他の多くのものに於けるが如くであります。私は私に來る內的影響を私の內的生活に完々織り込んでしまうかも左もなれば全然この獲得を棄て去つてしまふかしなければなりませんでした。この特殊な氣質を持つてゐたものですから私は心的材料の制限された少量をしか味得することが出來ませんでした。

父の圖書室は再び搖き廻されました。

私は自分の爲めになる本をあまり探し出すことは出来ませんでした。何故ならば圖書室には主に神學に關する著書が藏されてあつたのです。

けれども私は十年許前にゴータで公にせられた一書を非常な喜びを以て占有しました。それはすべての科學及び美術の區分に亘つての概論であり

ました。而して數種の化學及び諸種の文學に關する簡潔な概要が掲げてありました。

その排列は學者達の普通の區分に従つて居りました。けれどもそれは長らく私の望んでゐた人智の全體に關する概念を得る助けとなりました。而して私はこの「世界文學一覽」（これがその本の題名です）を得たことを本當によろこびました、私は出來るだけこの本を利用しやうと決心しました、而してこの決心を實行することに取り掛けました。

三十四、雜誌購讀

父の取つてゐた數種の雜誌から科學的の種々な抜萃を集録して置くために私はその頃既に一種の日記をつけ始めてゐました（父はこの目的のために他の牧師や教育ある人々と雜誌購讀會を組織してゐたのです）

この雜誌の體裁は決つて居りませんでした——何でも材料が寄るまゝにそれからそれへと掲載し

て居りました。それがためにこの雑誌の利用といふことは至つて不便でありました。併し私は一家の計畫に基いた科目分けの有利なことを認めまして早速方法の計畫を案出しました。

私は覚えて置く價値のあると思つた記事、大體みな言ひ方をすれば紳士に必要な記事、それから私自身の要求のために特に必要であると思つた記事はすべて集める事にしてありました。而してこの豊な寶は何時でも都合のいい場合に又必要な時にその抄集から引き出し得られるやうになつてゐました。私は漸次私の心内の鋭くなつて行く知りたいといふ欲求が更に充分研究するやうに常に私を促す事柄の概念を得たいと望みました。

私は私の仕事に幸福を感じました。而して私は既に數日の間といふもの朝疾くから夜遅くまで鐵格子の篠つた窓のある小さな離れで私の仕事に傍目もふらずに精を出して居りました。すると私が突然思ひ掛けなくもその室へ歩んで來ました

父は私のした事を見ました。而してそれに用ゐた紙の山に目をつけました。まつたくその紙の量といつたら渺くはなかつたのであります。

そくさと眺め渡しただけで父は私の仕事を時間と用紙の愚劣な費消である決めてしまひました私の味方になつて屢々擁護者となつてくれる父の兄(クリストフ)が若しその時訪ねて来てゐてくれなかつたら自分の好むことをするといふことはその時かぎり全然終つてしまつたかも分らないと思ひます兄はオーベルワイズバッハから數時間で達せられる所で牧師をしてゐたのです。而してこの時は兩親の家へ泊りに來てゐたのです。父は直ちに兄に實のところ害は無いとはいへ無用な仕事に就て考へてゐることを話しました。併し兄はそれにては異つた見方をして居りました。

私はそれ故に父の默許を得て無理に引續いてそれを行つてゐました。而してこの仕事はまつたく私のために實際の役に立ちました。それは私に最

も有益な影響を與へる或る一定の秩序と幅員と堅固とを私の思想に齎しました。

三十五、園藝作業

私の父は今や私の天分に従つて一定の地位を私に與へやうと骨を折りました。兎も角或る地位に私を近かせ得る關係のある活動的な仕事を附與したいと考へたのです。而してこの目的のためには詫へ向きの機會が直きに出來て來ました。

父の親戚の或者がヒルドブルグハウゼン地方に執事任せにしてある土地を所有して居りました。

父はこの親戚と親しくしてゐましたので私はこの執事の下で實地に園藝を研究することが出来ることになりました。

私は其處で普通の園藝作業を皆と一緒になつて行ひました。しかし是等の作業はあまり私の興味を惹きませんでした。而して私が若し私の性質を理解してさへゐたならば私がまるきり柄にない仕事を見附けたことに氣が附いた筈なのです。

その頃私の胸に一番苦痛であつたことは私と父との間に心の理解が缺けてゐたといふことであります。

同時に私は父を尊敬しない譯には行きませんでした。父は高齢に達してゐるにも係らず身心共に強壯で且つ健全でありました。談話や相談などをする時にも頭ははつきりしてゐましたし、物事を成し遂げたり實際的な仕事をする場合には氣力は旺盛でありましたし、演説の時には熱心否固苦しくありました。父は確乎たる鞏固の意志を持つて居りました。同時に高尚な自己犠牲の努力を以て充たされて居りました。

父は善と信じたことは何處までも争ふことを決して避けませんでした。

父は軍人が劍を使ふやうに眞のために善のために將又正のためにペンを働かせました。

私は父が漸次年を取つて死期に近いて行くことを知りました。而して尙父に自分といふものを理

解されないのが悲しうございました。

父は私を愛しました。而してこの愛のために大脣結果がよいといふことを感じました。そこで私は父の許へ手紙を送らうと決心しました。手紙で自分で分つてゐるだけの自分の真性を父に知つて貰はふと思つたのです。

長い間私はこの手紙のことを心に繰返しました。私にはそれを書くべき力も勇氣も出て来ませんでした。

三十六、父 の 死

しばらくして父の許から手紙が来て十一月に私は歸宅することになりました。田舎の地所で數月働いた後でありました。

私は今や全く弱り果て殆んど寝た切りになつた父を助けるために呼び戻されたのでして。何はともあれ父の手紙を書く手助けをしました。

家族的其他の配慮及び生活の繁忙が私の時間の全部を奪つてしまひました。

私が手紙で實行するやうに書いたことは今や幸ひにも人々の談話に於て、眼から眼へのひらめきに於て實行が出来るやうになりました。

父は死ぬまで私の未來の出世を心にかけて居りました。

父は一八〇二年の二月に此の世を去りました。

父の光ある御靈の、筆を執りつゝある我的の上を完き平和と祝福とを以て看守り給はんことを。斯くまでに卿を愛せる卿の息子に意を安んじ給はんことを。

三十七、森 林 局 の 書 記

私は今やあらゆる點に於て自分の身を自由にすることが出来ました。而して私の周囲の事情に従つて自分で未來の生活の方向を決定することが出来ました。

この自然の過程を以て私はもう一度イーステルの親の家を去りました。バムベルグの監督組織地方の普通行政部(出納局、森林局、稅務局に分る)

の一部をなしてゐる森林局に書記の地位に就くためありました。

私の地方は通常ならぬ美しい景色の中に横つて居りました。

私の職務は軽くありました、而してそれが済んだ時には私は近所を自由にぶらつきました。

春になると景色は更に美しくなりました、私は自由な生活を送つて智と情とに力を得ました。

斯くて私はもう一度戸外で多く暮すくやうになり自然を友にして生活しました。

私の長官は藏書の多いのを誇つて居りました。で私はこれを利用しました、斯くて當時の印版に附せられた刊行物の中で、私の選んだ職業に關係のある事柄を取扱つてゐるもの、多くは他の刊行物と共に私の手に入つて來ました。

私は古代並びに近代の著作家や思索家から選ばれた、行爲に關する金言、思想、觀察を載せてゐる書籍を殊に興味深く感じました。

私の性格は成長して是等の金言に結びつけられました、私は是等の金言を何物よりも容易く理解し覺えることが出來ました。そして私は私の生活や思想に是等の金言を織り込みました。而してこれによつて私の行爲を檢べてみました。

私は私の内的生活に極く親密な調和を持つてゐる金言を抄録して置きました。そしてそれを常に自分の身に體して居りました。

是等の四圍の事情の他に私の生活は成長の多くの要素を持つて居りました。

私の長官はその家族と兵に熱心なローマン、カトリック教信者でありました。彼はカーラス教授の推薦してくれた家庭教師を選択採用しました。

この人は多くの優れた性質を持つて居りました、それですからこの人と私は直きに大層仲がよくなりました。

私達は二人とも尙當時帝國の封土であつた清教徒の住んでゐる隣村の醫者とか牧師とか學校教師

とかの家族の如な上品の人々と知合ひになると
いふ愉快を持つて居りました。

私の友なる家庭教師は生々とした研究心に富む
若い人でありまして殊長距離の旅行の計畫や教育
に關する包含多き企劃を作ることを好んで居りま
した。

私達の交際や生活は甚だ信頼的で且つ打ち開け
たものでありました何故ならば彼が好んだ事柄は
私にも亦親しいものであつたからです。けれども
私達の性質は絶對的に相反して居りました。

彼は學者の如く訓育された人でした、然るに私は
纔かばかり教育を受けてゐるのでした。

彼は世間や社會との葛藤の中を潜つて來た青年
であります。私の思想は如何にして自ら安んじ
又他の人々と折合つて行くべきかといふことに在
りました。且又私達の外的生活は眞の親密な友情
が私達の間に存在することの出來なかつたやうな
相異つた諸相を帶びて居りました。

けれども私達の相異そのものこそ私達を思つた
よりも親密に結びつけてくれました。

當時に於ては實地の陸地測量が主として私に興
味を起させました、それは戶外生活に對する私の
愛を直ちに満足させてくれ而して私の智を充分に
働かせることが出來たからであります、けれども
私もなさなければならぬやうになつた小歎みの
ない散し書きをすることには他の樂しい生活があ
つたにも係らず私は長らく堪えてゐることは出來
ませんでした。

三十八、陸地測量師

一八〇三年の春淺き頃、私は私の地位から去つ
てバムベルグに行きました、バムベルグがババリ
ヤに交付され從つて同地方の一般的の測量が必要
になるべき政變が直きに私の能力に適した仕事の
地位を確かに供給してくれるだらうと思つたので
す、

私の豫期は充たされませんでした。

種々と計畫を實行しやうとして私はバムベルグの陸地測量師に面會しました、而して直ちに彼等の一人から雇はれることになりました。

その人はそれまで多くの測量を手掛けて居りました、而して尙測量に從事して居りました、

私が地圖の製作に熟練して居ることを現しましたのでその人は測量に伴ふ必要な地圖の準備を私に任せました。このことが私の要求に對してはかなり割のいい仕事にしばらくの間私を雇はれさせて置きました。

新政府の差詰めの問題は勿論陸地測量師の任命でありました。そして町に住つてゐた人々は彼等の仕事の見本としてバムベルグの地圖を提出するやうに慇懃されました。若い頃に嗜んだ教へによつて私は斯様な仕事に不馴れではありませんでした、そこで私は地圖を描いて樂しみました、私はそれを提出しました。

私の作は賞讃されました。而してそのためには

は何か貰つたのでありました。けれども他郷人で無經驗で若くて而してまた自分の望んだ目的に對して最善の方法を致せなかつたので私は任命を受けませんでした。